

国土審議会 第28回北海道開発分科会

令和6年2月1日

【増田総務課長】 定刻となりましたので、ただいまから、国土審議会第28回北海道開発分科会を開会いたします。私は当分科会の事務局を担当いたします、北海道局総務課長の増田でございます。議事に入るまでの間、事務局で会議の進行を務めさせていただきます。

当分科会は本日現在、国土審議会委員4名及び特別委員16名の計20名から構成されております。本日の会議はオンラインを併用して実施しておりますが、国土審議会令に定める定足数を満たしておりますことをご報告申し上げます。

本日の議事についてでございますが、国土審議会運営規則の規定によりまして、原則として会議及び議事録を公開することとしております。このため、事前に傍聴を希望された皆様にはオンラインで、一部の報道関係者には会議室で傍聴いただいておりますが、報道関係者によるカメラ撮影は円滑な議事進行のため、議事に入る前の冒頭のみとさせていただきます。また、議事録につきましては、後日、委員の皆様にご確認いただいた上で、発言者氏名入りで公開させていただきますので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

本日の配布資料については、議事次第に記載のとおりとなっております。委員の皆様には、事前に電子メールにより送付させていただいております。傍聴の皆様につきましては、当分科会のホームページに資料一式を掲載しておりますので、必要に応じてご参照ください。

なお、通信環境によるトラブルが生じた際は、事務局の判断により、一度、会議の進行を中断させていただく場合がございますので、ご了承ください。

議事に先立ちまして、衆議院及び参議院の指名により、新たにご就任いただきました特別委員の方をご紹介します。

衆議院より鈴木貴子委員、また、参議院より羽生田俊委員でございます。

本日の出席者のご紹介につきましては、時間の都合上、出席者名簿により代えさせていただきます。

なお、伊東委員、鈴木貴子委員、中村裕之委員、矢ヶ崎委員におかれましては、途中からの出席になる旨、お聞きしております。

また、北海道知事の鈴木直道委員及び札幌市長の秋元委員におかれましては、それぞれ公

務の都合により、代理として浦本副知事及び天野副市長にご出席いただいております。

石川委員、高橋委員、橋本委員、篠原委員におかれましては、所用によりご欠席とのご連絡をいただいております。

なお、欠席される篠原委員からは事前にご意見をいただいております、内容については出席者にお知らせをしているほか、議事録にも収録させていただきます。

次に、国土交通省の出席者についてですが、出席者の皆様に事前に送付しております出席者名簿をもって代えさせていただきます。

ここで、分科会の開催に当たりまして、北海道局長の橋本から挨拶申し上げます。

【橋本北海道局長】 北海道局長を務めております、橋本と申します。ご参加の皆様、それからリモート画面でご参加の皆様、本当に心から感謝を申し上げます。

既にご説明させていただいておりますとおり、今回は第9期目の北海道総合開発計画を議論する最終の場と予定しております。本当に長きにわたるご議論に心から感謝する次第です。最終案につきまして、また、これからご説明をさせていただきます。

私から冒頭に1点、前回、計画部会長の真弓さんから第9期計画の着実な推進についてとして頂戴したご指示に対する動きをお話させていただきます。

一点目の、計画の推進を主たる目的とする組織を置くことということに関しましては、その後、組織要求を査定当局に行いまして、札幌から稚内まで10の開発建設部の全てに地域連携課という新しい課を置くことができました。実は「北海道総合開発計画を推進する」とストレートに組織規定を置いた課というのが今までございませんでしたが、明確に目的化した課として新設いたしました。

二点目の、「地域との共創を実現できる、実践できる人材を充てる」点は、縦割に陥ることなく事務、技術、河川、道路、港湾、農業、全ての部門から人材をそれぞれに個々に組みまして、しっかりと共創を推進できる者を充てるべく今、準備中でございます。

三点目の「必要な予算を多角的に確保、拡充すること」につきましては、先週から国会が開会されたところですが、そこに提出した政府案の中で、開発計画推進費についても僅かではありますが増額できたところです。

四点目の「積極的で丁寧な広報、広聴」に関しましては、4月からスタート以降、速やかにキックオフの行事を、本局は勿論、先ほど申し上げました札幌から稚内まで10の開発建設部においても準備しており、積極的な広報、広聴を行っていきたいと思っております。

以上、閣議決定後の私どもの動きについてもお話させていただきました。本日もどうぞよ

ろしくお願いいたします。

【増田総務課長】 報道関係者の皆様によるカメラ撮影はここまでとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、以降の議事進行につきましては石田分科会長にお願いしたいと存じます。石田分科会長、よろしくお願いいたします。

【石田分科会長】 それでは議事に入らせていただきます。本日の議題は第9期北海道総合開発計画（案）についてと、計画の推進についての2点でございます。1点目の第9期計画案につきましては前回、昨年9月の分科会におきまして取りまとめさせていただきました素案を、その後に行われたパブリックコメント等を踏まえて修正したものでございます。

まずは、事務局より2点目の計画の進め方と併せて一括してご説明いただき、その後、皆様からご意見をいただきたいと思っております。

なお、第9期計画につきましては、先ほどの橋本局長のご挨拶の中でもございましたように本日の審議をもって取りまとめとなりますので、皆様よろしくお願いいたします。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

【石川参事官】 北海道局参事官の石川でございます。私から資料の説明をさせていただきます。それでは、資料を共有させていただきます。

資料2、検討経過等でございます。これまでの経緯につきましては委員の皆様、ご案内のとおりですが、本日の分科会で計画案の取りまとめということで、ご了承いただければ、この後、国土交通大臣に答申し、年度内の閣議決定に向けて進めていきたいと考えております。

本日は前回の第27回分科会でいただいたご意見、それからパブリックコメントの結果を踏まえて計画案の変更をしたところを中心に説明させていただきます。

まず、パブリックコメントについてでございます。昨年の10月10日から11月8日までの間でパブリックコメントを行いまして、21名から42件のご意見をいただきました。下に分類をしておりますけれども、大体広い範囲でいろいろな意見をいただいております。特に、人流・物流ネットワークに関する意見が多かった状況でございます。これらの意見については計画の修正に反映したのもございますし、今後の計画の推進に当たってこういったご意見を参考にしていきたいと思っております。中身の説明は省略いたします。

資料4-1でございます。これが第9期北海道総合開発計画（案）の本文でございます。

資料4-2で前回からの主な修正点を簡単に説明させていただきます。まず1ページ目

でございます。第9期北海道総合開発計画の意義でございます。東アジア情勢の記載やデジタル産業のサプライチェーンの危機についても触れてもらうとよいという意見をいただきまして、修正を行っております。

2ページ目です。北海道には多種多様な、アイヌ文化だけではなくて様々な文化、様々な資源があるという意見がございましたので、アイヌ文化や世界文化遺産の北海道・北東北の縄文遺跡群、オホーツク文化、擦文文化等という記載を追加いたしました。

3ページです。⑥のところは先程と同様な修正です。⑩経済・社会を支えるネットワークを確立というところではパブリックコメント、それから委員からも北海道新幹線の効果について最大限発揮できるような書きぶりということで、創成川通やバスターミナルの整備、さらにハブ機能の形成、道内のヒト・モノの流れの飛躍的な活性化を目指すといった追記をしております。

次に5ページ、フロンティア精神の再発揮のところです。先人たちが大変苦勞されて今の北海道があるというようなことをもう少し書いたらどうかという意見がございました。そのようなことで戦後においても石炭や食料の生産増強など、道民が積み上げてきた開発の歴史があるというところを追加しました。

7ページ、食関連産業のところです。利益率の高い農業に変えていくことが重要というご意見がございました。そのようなところを利益率の高い農林水産業、食関連産業への発展、ブランド力、付加価値を高めること、こういったことが重要であるということを追記しました。

次、8ページです。メディカルツーリズムについてもご意見がございました。医療や健康増進と連携した観光コンテンツの創出というところを追加しております。

10ページです。先端産業拠点の形成のところ、こういった先端産業の形成にはエネルギーの安定供給が不可欠という意見がございました。この意見を受けまして太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス等の再生可能エネルギー、それから原子力、火力、水素・アンモニア等、あらゆるエネルギーの活用に向けた検討を進めていくというところを追記しました。

次、11ページです。人手不足の問題についてもご意見いただいております。労働力不足の深刻化が懸念されているということで若者、女性、高齢者、障害者、外国人等の多様な人材を確保するというところを追記して、さらに就労環境の整備に当たっては多様性、公平性、包摂性、こういった観点を踏まえながら就労環境の整備が必要であるという記載にしております。

次、13ページです。札幌だけではなくて旭川や函館など、中核都市が次に発展していくポテンシャルを持っていることから、都市名も明示しつつ記載できればよいのではないかという意見をいただいております。このように旭川、函館、その他の圏域中心都市には札幌に次いで道内各地を牽引する役割が求められているということで、そういった圏域中心都市が高次の都市機能、生活機能を担うための都市基盤の整備というところも追記しております。

次に、15ページです。これは新幹線の整備に関連して、同様ですけれども、札幌の交通結節機能と都市機能の強化というところにも新幹線延伸を見据えという記載を追加しております。

前回からの主な修正点は以上です。

続いて、資料5です。これは北海道開発法の規定に基づいて、北海道知事から意見が提出されており、添付させていただいております。ご紹介のみでございます。

次、資料6です。資料6が計画の推進についてということで、先ほど橋本から説明いたしました、その内容をまとめております。

計画の推進を主たる目的とした組織として地域連携課を新設するというので、第9期北海道総合開発計画を推進するに当たって、左側に所掌事務を書いておりますけれども、北海道総合開発計画の推進に関する事務をつかさどるという所掌事務の組織を10の開発建設部全てに設置するということです。重要な役割の一つとして下線で引いておりますけれども、官民共創による地域の課題解決や価値向上の取組の推進ということで、官民共創の取組を強力に推進するために、開発建設部が中心となって地方公共団体ですとか関係機関、様々な方々と共創チーム、仮称ですけれども、こういったチームを作り地域の課題やニーズの解決、それから北海道の価値をさらに高めるような取組を展開していきたいと思っております。

次のページ、人材についてもしっかりと地域との共創を実践できる人材を登用していきたいと考えておりますし、予算についても北海道開発予算を活用していくことはもちろんですけれども、北海道開発予算以外の関係団体の資金ですとか、様々な資金を活用しながら地域との共創を積極的に展開していきたいと考えております。

最後に広報・広聴ですけれども、全体を通じて積極的で丁寧な広報・広聴を実施していくことはもちろんですけれども、来年度から第9期計画がスタートいたしますので、札幌での開催のほか、各開発建設部でキックオフイベントを開催して今後の地域の共創につながる

ようにしていきたいと思っております。

私からの説明は以上です。ご議論のほど、よろしく願いいたします。

【石田分科会長】 ありがとうございます。それでは審議に入ります。ただいまの事務局からの説明を踏まえて第9期北海道総合開発計画（案）につきまして、また計画の進め方につきましてご意見等ございましたらお願いします。時間に限りもございますので、誠に恐縮ですが発言はお1人4分から5分程度でお願いできればありがたいと思います。事務局の回答は最後にまとめてお願いしたいと思いますが、個別の質問に関しては、その場でお答えいただいたほうがよい場合もあろうかと思っておりますので、適宜対応をお願いいたします。

それでは、まず国会議員の委員の皆様、その後、有識者の委員の皆様にご発言をいただきます。なお、遅れてご出席予定の伊東委員、鈴木貴子委員、中村裕之委員につきましてはご到着され次第、ご発言をいただきます。それでは五十音で恐縮ですが徳永エリ委員、羽生田俊委員の順にご発言をいただきます。

まず徳永委員、お願いいたします。

【徳永委員】 皆さん、お疲れさまでございます。参議院議員、徳永エリでございます。これまで委員会の審議などが重なってしまってなかなか出席できていなかったことをおわび申し上げます。本日は第9期北海道総合開発計画（案）の取りまとめということでございますが、これまで様々な意見をお出しただいて、おまとめにご尽力いただいた分科会の委員の皆様、また、国交省北海道局の皆様に心から敬意を表します。

北海道、コロナによる制約が徐々になくなっていく中で、コロナ前の活気をかなり取り戻してきたという感じはいたしております。北海道にはまだまだ多くの可能性がございますので、その可能性をしっかりと実現をしていかなければ、つなげていかなければいけないとも思っております。今回のこの取りまとめの中にある観光、食、一次産業、エネルギー、ゼロカーボンといった北海道のポテンシャルをしっかりと実現をしてさらに高めていくためには今、一番問題となっているのは人と、潤沢な予算だと思います。

まず、人でありますけれども、このままでいくと北海道、2050年には現状の3割、人口が減るということでもあります。それから労働力も2040年には担い手不足率が30%を超えるということで、大変危機的な状況です。今、もう季節関係なく海外からインバウンドが北海道に観光に訪れておりますけれども、人がいないということで旅館やホテルも、例えば地域によっては食事が提供できないということも起きておりますし、飲食店などもなかなか働く人がいないということでアルバイト、プロがどんどんいなくなっている状況の

中で質の低下が否めない、観光立国では大変に深刻な問題だと思っております。

そういう中で私は女性とか高齢者とか障害者とか、いろいろな人材の活用というお話がありますけれども、これからキーワードは外国人だと思っております。本国会で外国人技能実習制度の見直しが議論されることになっておりますけれども、小手先だけの見直しだけではなくて、抜本的に外国人受入れのための労働法制、見直していかなければいけないと思っております。日本人労働者と同じような条件で、しかも家族が帯同できる、こういった形にしていくことが必要だと思っております。安心して働いていただいて長く働き続けてもらう、できれば移住、移民もしていただきたいと思っておりますし、そのためには行政とか、地域がしっかり外国人の方々をサポートしていかなければいけないということで、私たち、立憲民主党ですが、新たな外国人労働者の受入れ法制と、それから多文化共生社会基本法という法案を作らせていただきまして本国会にセットで提出することになっております。

北海道、今も一次産業の現場には多くの技能実習生の方々が働いておまして、もう既に地域ではしっかり共生できる場所もあります。北海道からこの多文化共生社会を実現していくって全国に広めていく、そうでなければこの人口減少問題、あるいは労働力不足、解決ができないと思っておりますので、この問題にしっかり向き合っていかなければならないと思っております。

それから予算の問題ですけれども、私は国会議員にさせていただいてから14年間、農林水産産業を専門として仕事をさせていただいておまして、現場を常に回らせていただいておりますけれども、相当今、一次産業、痛んでおります。温暖化の影響もあることはご説明するまでもありませんけれども、国会では北海道の予算、農林水産予算の補助金がこのところ、減らされ続けてきているんです。いろんな補助金、北海道と内地と差がつけられている状況もありますし、補助金の額を都道府県別に並べると北海道が圧倒的に多いので、なんでこんな北海道にばかり補助金がいっているんだという声が国会の中で上がっているということですので。

私がいつも申し上げているのは、北海道は国土面積の22%なんだと、東北6県プラス新潟の広さがあるんだと、ですから7県分の予算が北海道に来てもいいぐらいなんだと申し上げておりますけれども、食料自給率も38%しかない中で北海道は200%を超えている状況でありますから、本当に食料安全保障を確保するためにも北海道のこの一次産業をしっかり守っていくというのは大変重要だと思っております。

それこそ温暖化の影響があって今、北海道でもサツマイモを作っておりますけれども、北

北海道のサツマイモを使って九州で焼酎を作ると、サツマイモの病気なんかが出て本州で作れないというような状況も起きていますし、あと北海道の吟風、彗星、きたしづく、こういった酒米、すごく良くなりました。北海道の酒米を使って本州の酒蔵がお酒をつくるとか、あるいは北海道のじゃがいも、たねいもを使ってそれこそ九州、沖縄、こういったところでじゃがいもの生産をするとか、日本全体のこの食料のことを考えても本当に北海道は重要だと思いますので、しっかりと私たちも予算を獲得するには相当、政治の力も必要なわけがありますけれども、特に北海道の議員は与野党ののりを越えて、しっかりとこの北海道のために予算獲得をしていかなければいけないと思っております。

それから再生可能エネルギー、これも大変にポテンシャルが高いわけでありましてけれども、環境破壊につながるということがないように十分留意をしながら、洋上風力発電とか地熱発電などもそうですけれども、最近あまり言われなくなりましたが雪氷冷熱エネルギー、これだけ暑くなってきておりますのでもっともっと北海道の雪を活用してゼロカーボン、エネルギー、こういったものをしっかり取り組んでいくことが大事だと思います。

それから、これまでもいろんな動きがありますけれども道外、そして海外から投資を募っていく、この仕組みを積極的に作っていかなければならないと思っておりますから、こういったことに対しても道、あるいは自治体と連携をしながら私たちもしっかりやっていきたいと思っております。

なかなか今はいろんなことが厳しい状況でありますけれども、とにかく本当に北海道はいろんな可能性があります。これから本当にこの温暖化のことを考えても、あるいは自然環境を考えても北海道には魅力や可能性がたくさんありますので、しっかり発信をしていって北海道の地域を元気にしていく、そして人が増えていくことによって物流の問題だとか移動の足の問題、JRの問題が解決していくと思っておりますので、いかにして北海道を元気にし、そして人を増やしていくか、このことに私たちもしっかり取り組んでいきたいと思っておりますので、今後とも、また先生方のいろいろなアドバイスやご意見をいただければと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

それから最後になりますけれども、北海道のこの開発の地域連携課ですか、官民共創ということでありますけれども、大変期待をいたしております。ぜひとも官の力、民の力、お互いにしっかり生かしていただいて、北海道が持っている可能性を具体化していただくようによろしくお願ひ申し上げます。

以上です。ありがとうございました。

【石田分科会長】 ありがとうございます。それでは続きまして、羽生田俊委員、お願いいたします。

【羽生田委員】 この分科会に初めて出席をさせていただきました、参議院議員の羽生田でございます。12月27日付でこの北海道開発分科会の委員を拝命したところでございまして、もう最終段階に入っているということで大変申し訳なく思うところでございますけれども、よろしく願いいたします。

私は医療関係者といいますか、医師でございますので、医療関係についてもいろいろと考えを持っていたところでございますけれども、北海道にも医師会の関係で随分多く行かせていただいておりますけれども、道内を移動する時に町と町の距離が非常に長いということ、そういったことが救急医療などを考えますと道路のネットワークも非常に必要であると感じたところでございますし、また、都市部に住む医師を地方の病院に派遣するということにも、いろんな航空ネットワークも必要かなとも感じたところでございます。

今、ドクターヘリというのが全国的に飛んでおりますけれども、北海道の場合には端から端にドクターヘリが飛べないんです。それでドクタージェットということでモデル事業を立ち上げて今、行っていると思っておりますけれども、そういった時には千歳空港よりは丘珠空港が整備されると非常にありがたいなといいますか、航空ネットワークとしては非常に大きなことだろうなとも思っているところでございます。

広いということで今、オンライン診療というのがいろいろと出てきておりますけれども、対面で診療、治療というのはリアルな医療行為の原則ではございますけれども、状況によってはデジタル技術を活用した遠隔医療というものが医療行為として受けられるようになってきておりますので、こういったことを北海道では特に整備が必要かなと思っております。

第9期の計画ではリアルとデジタルのハイブリッドがうたわれておりますけれども、これをぜひ推進をしていただければなと思っているところでございます。第9期計画には食や観光が重点施策に位置づけられていますけれども、北海道は食材が非常に豊富であって質もいい、非常においしいものがたくさんあるということでございますので、それにプラスして観光もいろいろなところへ行きたいということが随分あるわけでございまして、もう国内に限らず、外国からも随分観光客が訪れるというところでございますので、そういったことをもっともっと広げていけるのではないかなとも感じているところでございます。

特に今もお話ありましたけれども、日本の食卓を支えているというのはこの北海道の農業や漁業でございますので、国内の観光産業を牽引していくのもこの北海道であろうと思

いますので、まだまだそういった余地が多分にあるのかなとも感じております。

第9期計画では食、観光に続いて第3の価値として脱炭素化というのを打ち出しているわけでございますけれども、これらほかでは代替できない北海道の価値を最大化して国の課題解決を先導していくというようなことを、地方公共団体や民間団体などが一体となって地域の特色を生かした取組を進められることを大変期待しているところでございます。

また、さきに述べましたように、北海道の価値を生み出す意味では北海道地方部の生産空間が今後も維持発展していくように定住環境の整備、あるいは人流、物流のネットワークの形成、強靱な国土づくり等が非常に着実に進められるように期待をしております。

最後に資料の中に計画の推進について、多くの方の共感と理解が広がるよう、積極的で丁寧な広報、広聴に取り組んでいかなければならないとありましたけれども、私もこの第9期計画の意義、あるいは内容というものを機会あるごとに広めていきたいと感じたところでございます。これからも計画に基づく様々な北海道の取組が国の課題解決と豊かな北海道の実現に貢献するよう、私としてもこれを祈念して私の発言とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

【石田分科会長】 ありがとうございました。それでは、ここから有識者の委員の皆様にご発言をお願いします。代理出席されております北海道の浦本副知事と札幌市の天野副市长におかれましては、恐縮でございますけれども最後に指名させていただきます。

それでは、同じく五十音順となります。まずは家田委員、お願いいたします。

【家田委員】 皆さん、家田でございます。このレポートをおまとめいただいた方々、どうもご苦労さまでございました。僕はよく書けていると思います。これで確定していただけたらと思います。

その上で、今後に向けてということでコメントさせていただくと、一つは能登半島地震というのが起こって、要するに人口密度が低いところで道路の便、その他もろもろのいろんなハンディキャップを持っているところでは、どこでもああいうことは起こり得ると認識して、覚悟を決めてといいますか、根性入れて対応しなきゃいけないというのは痛感するところでございます。そういう中では、北海道は中でもヨーロッパ型の国土構造を持っているので、とりわけ孤立対策等々は考えなきゃいけないなと痛感したところでございます。今後のこのプランを具体化するに当たっては、そんなことも配慮していただけたらなと思います。

もう1点だけ申し上げると、幾つかコメントしたところにつきまして加筆していただい

たんですが、それをもうちょっと補強する意味で、特に変えていただく必要はないですけどもコメントしますと、北海道の食料について大変な努力をしてきたことは、もう国民の皆さん、本当によく分かっているところですが、決してそれは量の話だけじゃなくて質ですね、大変すばらしいおいしいお米をつくれるようになった。これなんか、もう本当に100年くらいかかってここまで到達した大変な努力の賜物であって、恐らくこれからも北海道は食に関して決して量のみならず、質もすばらしいもの、世界が納得してくれるようなものを、褒めてくれるようなものをきつと作ってくれる、それを大いに期待するところでございます。

また、新幹線につきましては、幸いに札幌に到達するのがだんだん見えつつあるところでございますけれども、その際にはその恩恵をいろんなところに及ぼして、北海道内の札幌一極集中という構造をもう少し周辺の都市に拠点性を高めるということが重要だと思います。その際には今回、あまり明瞭に地名は書いてございませんけれども、少なくとも帯広や、旭川は非常に重要な拠点になるし、人口が減る中で交通対策が非常に難しいことになっておりますけれども、そういった重要なところについては鉄道路線の確保のみならず、その強化、機能向上、この辺も頭に置いていただけたらなと思います。

以上でございます。どうもありがとうございました。

【石田分科会長】 ありがとうございます。それでは続きまして垣内委員、お願いいたします。

【垣内委員】 皆様、こんにちは。開発計画、おまとめいただきました皆様にまず感謝申し上げます。私もこの計画、非常に優れたメッセージ性の高いものであろうと思います。幾つもの厳しい課題もありながら、北海道の未来をつくる形で展望が開けているかなとも思いました。このメッセージをできるだけ多くの方に共有していただきたいと期待しております。その上で、2点ほどコメントさせていただきます。

まず、8ページのところで北海道独自の歴史や文化の価値が改めて見直されていること、国民共通の財産である自然、文化を受け継ぐことが求められていると書かれていることを大変うれしく思っております。また、豊かな自然と文化の保全と観光の両立ということも明記されておまして、ここは非常に高く評価したいと思っております。文化観光の推進も非常に重要な課題だと思いますし、世界遺産である北海道・北東北の縄文遺跡、それからアイヌ文化、ウポポイなど、きちんと個別に記載されているところも大変うれしく思いますが、北海道にはほかにもたくさん非常に優れた個性的な文化資源がございます。特に幾つかの

文化資源は大変に誘客力が大きい、国内外のお客さんたちを引きつける魅力があるものだと思います。

例えば北のウォール街とかつて言われていた小樽では歴史的な建造物が残り、そしてまた運河がある。この風情、景観があつてこそ、コロナ禍前で年間約700万人、コンスタントにお客さんが飛行機でいらっしゃるといふようなこともございますし、函館の重要伝統的建造物群保存地区、これは国の選定ですので、我が国にとって価値が高いと認められたもので、北海道では唯一のものです。コロナ禍前ですけれども、500万人超えの訪問者があると聞いております。また、インバウンドの方も多く、その美しい夜景でも非常に有名などころでございます。

こういった文化財だけではなく、例えば旭川では行動展示ということで世界的にも知られている旭山動物園、こちらも年間100万人を超えるような方がコロナ禍後でもやってくるわけで、これ以外でもたくさんのすばらしい文化資源がございます。こういった文化的価値は、この計画でも明記されている保全に結び付けて、うまく守っていくことによってより活用もできるようになるかと思ひます。ぜひこういった文化資源も視野に入れていただき、協働できるような形でこの計画の中に何らか、触れていただくと大変うれしいと思ひます。現状でもざっくりとは触れていただいているんですけれども、文化資源に関わる方々へのメッセージとしても、書きぶりはお任せしたいと思ひますし、他分野との平仄もあるでしょうけれども、こういった人たちもちゃんとこの計画の中で、一緒に協働しようと思ひているんだというメッセージをどこかに入れていただければと思ひております。これが1点目。

2点目は、先ほど先生方のコストの話や、予算が必要だというお話もございました。もうまさに、議員の先生方に頑張っていただきたいところですが、こちらに関しましても必要な資源をぜひ多角的に確保する、拡充するというようなこともお願いしたいと思ひます。政府だけではなく企業とか、いろいろな方がメリットを感じる部分もあるかと思ひます。金額は多くないかもしれませんが、そういったものを総力を挙げてこの計画に引込んでいくというようなこともぜひお願いしたいと思ひます。組織も拡充される、整備されるということでございますので、ぜひぜひその辺りも含めて、もうオール北海道でこの魅力をグローバルに発信していただければと思ひております。

以上でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

【石田分科会長】 ありがとうございます。それでは続きまして、田澤委員、お願ひい

たします。

【田澤委員】 田澤です。ありがとうございます。私、実は今、北見市の市役所のワークスペースから参加させていただいております。何でかといいますと、北見市とJAL（日本航空）の社員さんの合同研修会が開催されているのをこの会議の直前まで傍聴させていただいておりました。都市部の企業と北海道の自治体が交流してつながる可能性をととても感じているところでございます。

その中で私が一番取り組んでおりますテレワークという働き方、こちらに関しても今回の計画の中に入れていただきましてありがとうございます。どちらかと言うとコロナ禍でテレワークが浸透したという記述が多いんですけども、ここでこのタイミングで都市部の企業も変わってきていますし、地域の企業も変わっていく、人の働き方が変わる、生き方が変わる中で北海道にとってはとてもいいチャンスであるとは私は考えております。ですから今回の計画の中で各所に入れていただいておりますので、ぜひ多方面で、人がいてなんぼ、若い人が地域にいてなんぼですので、そのところをぜひ、また引き続き強く押しいただければと思っております。

ちょうど私が審議委員として参加させていただいている本省の形成計画の辺りで、早期の実施に向けて早速、移住、二拠点居住についての委員会が開催されておりました。その結果をもってもう既に動きが出てきております。1月30日の日経新聞でも掲載されておりましたけれども、今の通常国会に広域的地域活性化基盤整備法の改正案が提出予定ということで、その中では空き家の施設の改修費用を支援したり、規制緩和として指定地域でシェアハウスや共同の職場、まさにテレワークができるような、そういったものが新設しやすくなる規制緩和が盛り込まれておまして、私としてはとても期待しているところでございます。内閣府のデジ田の交付金等で地域にいろいろなテレワーク施設ができております。ただ、宿泊ができない、長期滞在ができない中でこういった動きをしっかりと捉え、北海道でも人の動き、長期滞在、そして移住、定住につながるような施策をぜひ実施していただけたらなと思っております。

以上でございます。ありがとうございました。

【石田分科会長】 ありがとうございます。それでは五十音でいきますと、中嶋委員でございます。よろしくお願いいたします。

【中嶋委員】 東京大学の中嶋でございます。このたびは、第9期計画を取りまとめていただきましてありがとうございました。これが実現することを強く願っております。現行の

第8期計画の実績の振り返り、それから新たな第9期計画の策定においては、計画部会に参加して2年以上にわたって議論させていただきました。大変丁寧に検討を行うことができ、私が専門としております農林水産業分野が北海道地域の発展と我が国の持続可能な社会の構築にいかに関与するか、道筋を明確にさせていただいたのではないかと考えております。

北海道は以前から我が国の食料を支える重要な役割を果たしてきたことは言うまでもございませんし、過去の計画においても常にその旨は組み込まれていたと考えております。ただ、現在の食料自給率の水準において、最近の国際的な食料調達をめぐる情勢が気候変動、それから地政学的な動向によって大変不安定になってきていることに対して懸念が高まってきております。こういった懸念もあって、改めて我が国の食料安全保障上の在り方を見詰め直して、政策的な再検討がなされているところであります。このことを踏まえまして今回の第9期計画において、北海道の食料供給力の強化につながる総合的な計画が策定されたことは、食料安全保障政策において一つの大事な役割を果たすことにつながり、それは北海道地域においても、それから日本国民にとっても大変有意義なものであったのではないかと考えております。

さらに物流の問題についても検討いただいたことが、私は食料供給力を強化する上で大変有効であったと考えております。言うまでもなく、食料の安定供給はつくるだけでなく届けるところまでの条件が十分出来上がって初めて達成されると承知しております。一昨年来から食料・農業・農村基本法の見直しをするために、農林水産省における食農審の基本法検証部会に関わってまいりましたが、その際に国際的な食料安全保障の概念として供給面の条件、アクセスの条件、衛生環境などの利用面に関する条件、安定面の条件という4つが改めて紹介されました。これは途上国などを念頭に国際的に利用されてきた概念の枠組みでございますけれども、国内外の情勢が大きく変化する中で、先進国である我が国もこの概念を適用して食料安全保障の状況を改めて検討すべき時代になったという問題意識が背景にございました。

そのような分析的な視角を基に考えたときに、たとえ食料を確保できても流通や輸送において問題があれば消費者、国民が食料にアクセスできなくなることが改めて認識されるべきであり、このアクセス面での将来の安定性や、もしもの時の脆弱性に注意を払いながら環境整備に努めるべきであるということになります。北海道の地理的優位性と不利性の両方を評価し、この供給面とアクセス面の強みと弱みにしっかりと対処することが我が国の

食料安全保障の強化へ貢献することになるわけですので、この観点から今回の計画において十分に配慮いただいたと思っております。

こういった施策は、フードチェーン全体で取り組む必要があるところでありますけれども、今後の計画の推進については官民共創の仕組みを構築されるということで、大いに心を強くしたところですよ。いずれにしても、この議論の場に参加させていただいたことを御礼申し上げます、この後の計画が着実に実行、実現していくことをお祈り申し上げます。

以上、私のコメントとさせていただきます。どうもありがとうございました。

【石田分科会長】 ありがとうございました。続きまして中村太士委員、お願いいたします。

【中村（太）委員】 ありがとうございます。環境の面についてしっかり書いていただいて、個別には良い提言になったんじゃないかなと思えました。ただ、気になるのはつながりの部分で、例えばグリーンインフラを拡大すべきとか、生態系ネットワークを作っていくべき、形成すべきだということが例えば自然共生社会の中ですごく強く書かれています。一方で、流域治水の中で遊水地がまさにグリーンインフラだと思いますし、そういった気候変動の適応とか、治水と環境を分けるのではなくて同時に達成していくといったような、そういう感覚を持っていただきたい、もしくはそういうメッセージを発信してほしいなと思えました。

ほかにもどなたかおっしゃられたようにゼロカーボンも重要であり、また再生可能エネルギーも北海道の一つの特色として重要ですが、これがもう一つの重要な柱である観光に対しても現実には影響を与えているんですね。海外からたくさんの方が来られて、雄大な北海道を見に来たと思ったら道路の両側が太陽光パネルで覆われているといった。そういった意味では観光にとっても自然環境というのは非常に重要なので、これも再生可能エネルギーだけを切り取るんじゃなくて、環境とか観光とどういう形で調和的に計画していくかというのはすごく重要なんじゃないかなと思います。ぜひ、施策のつながりを、特に地域連携課というのができるという話ですので、そこでは大いに議論して最終的な地域計画の中でうまく調和させてほしいなと思えました。

それから、うっかりこれまで発言してこなかったんですけど、野生動物の問題が、例えば道路で乗用車とぶつかって、動物だけの問題じゃなくて人間側にも非常に危険な状態が続いていますし、ご存知のようにクマの問題が観光に影響していることもあるので、こういった野生動物との調和といいますか、どうやって管理しながら、どうやって北海道の住みやす

い豊かな環境を守っていくかという議論が多分、完全にこの提言から抜け落ちているように思います。分野的に違うから仕方がないのかもしれませんが、何らかの形でのメッセージは、これほど野生動物のあつれきが日本各地で報道されていて、北海道はその代表的な場所だと思いますので。食文化なんかの問題だとアライグマの問題もあって、そこらじゅうで北海道の畑がアライグマに荒らされている現状もあるので、その辺も含めて書き込んでおいたほうがいいんじゃないのかなと思いました。

以上です。ありがとうございます。

【石田分科会長】 ありがとうございます。次は真弓委員でございます。お願いいたします。

【真弓分科会長代理】 ありがとうございます。私、計画部会長を務めさせていただきました。その観点から私から一言、お礼とお願いを申し上げたいと思います。

先ほど資料2に記載ありましたとおり、当計画部会でありますけれども第9期の北海道総合開発計画の策定に向けて、令和3年10月の第25回北海道開発分科会において設置されまして、以降、都合9回の部会において中間整理、そして計画素案を作成してまいりました。この間、計画部会の構成委員の皆様から北海道のあるべき姿、様々な具体的施策につきまして極めて真摯に、そして建設的なご意見を頂戴し、また、本日含めまして4回の分科会を通じまして各委員の皆様からも多様な視点から大変貴重なご意見、ご示唆もいただきましたこと、改めてお礼を申し上げます。

事務局を務められました橋本北海道局長はじめ、北海道局職員、関係者の皆様には都度、大変なご尽力をいただき、この第9期計画をおまとめいただきました。心より感謝申し上げます。

ご案内のとおり、全国に先んじて高齢化が進行して、生産年齢人口の減少など極めて厳しい社会環境を抱える北海道であります。先ほどもありましたとおり、その豊かなポテンシャルを生かして国の課題解決に貢献するには、国だけではなく様々な主体が将来像と目標を共有し、連携協力しながら取組をスピード感を持って進めていかなければなりません。計画部会におきましても今が土俵際、最後のチャンスと危機感を持ちながら検討を進めてきたところでもあります。

この先、閣議決定を経て、本計画に基づき様々な施策を官民共創で推進していただくこととなりますけれども、決して後戻りすることなく、目標に向けて不退転の覚悟を持って臨んでいただかなければならないと思います。この点、前回の分科会におきまして私から申し上

げました提案に関しまして、冒頭、橋本局長よりご紹介いただきましたけれども、資料6に記載のとおり、北海道開発局内に強力な推進体制が整備されることにつきまして大変力強く感じますとともに、感謝を申し上げる次第であります。

併せまして効率的、そして効果的に各施策を実践していくためには各地域、そして現場の実態をしっかりと調査、評価した上で取組を立案、実行していく必要があると思います。前回の分科会でも申し上げましたけれども、施策の推進状況を常にウォッチ、チェック、分析し、必要に応じて見直しなど、PDCAのサイクルを確実に回していただきたいと思います。各開発建設部に設置されます地域連携課、責任者の方が計画の推進に専念できますよう北海道局、そして北海道開発局の皆さんにはぜひサポートをお願いしたいと思います。

併せて、責任者の方々には自分たちはこうしたいという地域のこだわり、ビジョンを各主体、地域共創チームとともに共有願いたいと思いますし、この取組の持続性を図るためにも地域の若者にとって魅力のある施策を若者と一緒に取り組んでいただきたいとも望んでいます。

長々とお話し申し上げましたけれども、限られた時間とマンパワー、そして費用の中で本計画の初期の目標、目的を達成するため、官民の垣根を越えた共創活動が不可欠であります。計画部会を代表いたしまして今後とも皆様からのご支援、ご協力、そしてご指導をお願い申し上げますとともに、長きにわたりお世話になりましたこと、厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

【石田分科会長】 本当にありがとうございました。それでは、次が矢ヶ崎委員でございます。お願いいたします。矢ヶ崎さんおられますか。おられましたらご発言をお願いいたします。(矢ヶ崎委員の音声不調)

それでは、順番変えさせていただきますして安永委員、お願いできますか。

【安永委員】 ありがとうございます。過去の会合でも述べさせていただいておりますが、産業界の視点として、人材不足やエネルギー安全保障、食料安全保障の問題、社会保障関連費用の増加により財政逼迫が起こる中、メディカル・ヘルスケア関連事業を一つの産業として捉えるべきではないかという視点、最後に物流の課題等についても申し上げてきました。本計画には当方の趣旨を網羅的にカバーさせていただいておりますことに感謝申し上げます。

非常に直接的な言い方かもしれませんが、国土交通省の壁を越えて、様々な政府機関の連携による総合力を発揮しない限り、北海道にとってベストソリューションにつながらないと考えており、地域連携課の創設によってこのような連携が実現できるものと期待して

おります。

一方で、あえて申し上げたいことがございます。私は、財務省の財政制度等審議会の委員も務めておりますが、その立場から考えますと、現在の日本の財政問題や財務規律、また、少子化対策や防衛といった予算の必要な項目に加え、諸外国等におけるゼロ金利政策の終息といった状況下では、当然、資金コストがハイライトされなければなりません。

つまり、予算に対する制約や圧迫がある中で、今回立案いただいた非常に総合的な計画を実行するとなると、予算をうまく活用する方法が求められます。もちろん、まずは政府が適切に予算を獲得していただくことが大前提ですが、その予算を効果的に使う方法を考えることも同時に重要となります。つまり、これまでと同じように網羅的に予算を使っているのか、10もの地域連携課が相互に牽制をし合うような状況では、地域的あるいは分野的にどこにメリハリをつけてお金を使うべきか、という発想がないと、何も変わらないということになりかねないと危惧いたします。必要なコストを負担することは大事ですが、メリハリをつけた予算の組み方が必要になってくることを強調させていただきたいと思います。

北海道が日本の先進的なモデルの一つとして、北海道の持つ固有の魅力を最大限に引き出すためにも、メリハリのある予算の使い方に期待しております。

以上です。

【石田分科会長】 ありがとうございます。矢ヶ崎委員、大丈夫でしょうか。

【矢ヶ崎委員】 申し訳ございませんでした。いかがでしょうか。

【石田分科会長】 明瞭に聞こえます。よろしく願いいたします。

【矢ヶ崎委員】 東京女子大学の矢ヶ崎でございます。観光が専門ですので、主に観光のことについてお話しさせていただきます。

まずもって、今回の計画で北海道が世界トップクラスの観光地域を目指すという目標を掲げられたことに敬意を表したいと思います。このことは北海道だけではなくて、日本の観光行政全体にとっても大変大事な意義のあることだと思っております。

そのために必要な課題として、私自身が考えておりますのが4つございます。1つ目は、自然や景観を活用した観光を進める上で不可欠な持続可能な観光地域づくりであること。また2つ目は国内市場だけではなくて、世界のインバウンド市場での国際競争を戦えるツーリズム産業を創出していくこと。このためには季節の偏りや道央圏への集中の是正を進める需要の平準化、それから高付加価値旅行への転換による旅行消費の単価向上が不可欠だと思います。3つ目は観光地域づくりの中核となる組織、観光地域づくり法人DMOの強

化です。これは計画の推進体制の中でも特に意識して進めていってほしいと思っております。4つ目は、北海道特有かと思うのですが、地域が観光振興に取り組むならば、地域の方々、特に第一次産業が豊かに展開されているような地域の方々が、本気になって観光のことを考えていただくことも大事だと思っております。観光に関する情報提供を地域に充実させることに加えまして、観光と連携することによって第一次産業等の本業にもメリットが生まれるという実態が大事だと思います。地場産業の状況を踏まえて、地域においてメリットの実現を工夫されていくことができるようになるといいかなと思っております。なお、計画はバランスよく記載されていると思いますので、ぜひ、確実な推進をお願いします。

これを踏まえまして、計画について3つ申し上げたいことがございます。まず1つ目は、22ページですが、世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出・拡充と稼ぐ力の向上という項目で高付加価値化の推進がうたわれております。これは先ほど申し上げた、道央圏への観光客の集中の是正としてもしっかり取り組んでほしいと思っております。ただ、初めて北海道に旅行する方々は、札幌を含む道央圏を選ぶ傾向にあります。また、パウダースノーが世界的に評価の高いニセコ・ヒラフが道央圏に属していますので、道央圏並みの旅行者数を地域分散させることはかなり難しいことだと思います。でも、やっていかなければならないことです。そこで、人数の地方分散の努力をしつつも、道央圏への集中の是正を消費額の単価アップによっても成し遂げていくことが大事ではないだろうかと考えます。道央圏以外の地域における1人当たりの旅行消費額が道央圏と見劣りしない水準に持つていくための高付加価値旅行の推進であってほしいと思っております。

それから24ページに、自然環境・文化の保全と観光が両立した持続可能な観光地域づくりという項目がございます。ここの1行目に「北海道は」ということで書いてありまして、「近代の開拓を始めとする地域固有の歴史・文化等が観光資源となっており」という記述があります。これは6ページに書いてある内容と齟齬がありまして、北海道の歴史が開拓以降のもののようなイメージを強めるという懸念があると思っておりますので、アイヌ文化であるとか縄文遺跡群、オホーツク文化、擦文文化、そして現在につながる北国の暮らしも全て含めて北海道には豊かな歴史があつて、それが大切な観光資源なのだと、開拓以降だけではないんだということをメッセージとして出していただきたいと思っております。できれば検討していただければと思っております。

最後です。重点的に取り組む施策のところ、オーバーツーリズム対策というのがございます。昨今のマスコミの報道はオーバーツーリズムへの危機感をあおるかのような傾向が

ありますけれども、北海道においては多様な関係者の意見をよく調整して冷静に検討していく必要があると思っております。ただ、地域資源にダメージを与えるような状況、それから旅行者の経験価値を低下させるような混雑の状況になると、その段階で対策を後追いの打っても解決はかなり難しくなります。DMOが中心となって、地域での予防策の検討を進めることを特に意識していただけると大変ありがたいと思っております。

以上です。通信トラブルありまして申し訳ありませんでした。

【石田分科会長】 いえいえ。ありがとうございました。

それでは、これからは代理でご出席をいただいております、北海道の浦本副知事と札幌市の天野副市長にご発言をお願いしたいと思います。まず浦本副知事、お願いいたします。

【浦本副知事】 北海道副知事の浦本でございます。発言の機会をいただき、ありがとうございます。

まず冒頭ですが、公務の都合によりまして委員である鈴木知事の出席がございませんでした。この場でおわびを申し上げたいと存じます。石田分科会長、そして真弓計画部会長はじめ、委員の皆様には日頃から北海道の発展のために格別なお力添えをいただいておりますこと、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げたいと存じます。

まず、第9期北海道総合開発計画の策定に当たりましては、私自身もこれまで計画部会の委員として議論に参加をさせていただきました。北海道が我が国に貢献をし、北海道の価値をさらに高める計画、これがこうして取りまとめられましたことを非常にうれしく思っております。取りまとめに当たりまして、これまで大変なご尽力をいただきました分科会委員の皆様、そして事務局の皆様へ改めて心から感謝申し上げます。

さて、北海道では、不安定な国際情勢を背景とした食料、そして経済の安全保障に対する意識の高まりなど、こうしたものを受けて、第9期計画と同様の認識に立ちまして現在、新たな総合計画の検討を進めております。新たな総合計画におきましては、北海道の特性、それからポテンシャル、これを力に変えて国内、海外から人、そして投資を呼び込むこと、さらに人口減少の進行によりまして地域社会の縮小という非常に厳しい課題に直面する中、誰もがそれぞれの可能性を発揮し、地域の力を高めるとともに地域の外からの力を生かすこと、この相乗効果によりまして北海道の力が日本そして世界を変えていく、一人ひとりが豊かで安心して住み続けられる地域を創る、このことを計画のめざす姿として掲げたところでございまして、今後、パブリックコメントなども実施しながら政策の内容などについてさらに検討を進め、本年夏頃を目途に決定をいたしましてスタートできるよう取り組んで

まいりたいと考えてございます。

最後になりますが、冒頭で事務局からご紹介いただきましたとおり、道では先般、北海道開発法の規定に基づきまして、新たな北海道総合開発計画の推進に当たりましては、道の新たな総合計画に基づき取り組む施策と連携をし、施策事業を展開していただきたいなどの意見を提出させていただきました。道といたしましては、新たな総合計画が掲げるめざす姿の実現に向け、道内各地域の取組を推進していくため、各開発建設部に新設されます地域連携課と道の振興局、これをしっかりと連携させていただきながら地域づくりを進めてまいりたいと考えてございます。皆様には引き続きご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

発言は以上でございます。よろしくお願いたします。

【石田分科会長】 ありがとうございます。続きまして天野副市長、お願いをいたします。

【天野副市長】 札幌市副市長の天野でございます。本日は委員であります秋元克広札幌市長の出席者がかなわず、おわびを申し上げます。

それでは、まず事務局である北海道局の皆様に対しまして、新たな北海道総合開発計画の案を取りまとめていただいたことに感謝申し上げます。これまで札幌市が発言させていただいておりました水素等の新たなエネルギーの導入や、また北海道新幹線の札幌延伸と新アクセス道路、札幌駅バスターミナルの整備などの交通結節点機能強化について今回、追記いただきまして誠にありがとうございます。

また、札幌市では昨年6月に産学官金の21機関から成るGXのコンソーシアムであるTeam Sapporo-Hokkaidoを設立し、GX産業の集積と金融機能の強化集積に向けた取組を両輪で進めてまいりました。先月23日には北海道・札幌「GX金融・資産運用特区」に係る提案をさせていただいたところであり、特区も活用しながらゼロカーボン北海道の実現に向けてさらに取組を加速させてまいりたいと考えております。

計画策定後の着実な推進について先ほどご説明がありましたが、札幌市といたしましても引き続き国や道と連携させていただき、また、国会議員の皆様や有識者の皆様からのご指導やお力添えを賜りながら積極的に取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願申し上げます。

私からは以上でございます。

【石田分科会長】 ありがとうございます。ひとりわたり皆様にご発言をいただきました

けれども、追加でのご発言等がございましたら補足なども含めてお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。挙手機能を使っていただくとありがたいです。

ないようでございますので、私からも一言、申し上げます。まずもって本当に熱心に議論賜りましてありがとうございます。皆様からよくできたというお褒めの言葉をいただきまして、真弓部会長にも感謝でございますし、事務局の方にも本当に努力をしていただきました。いいものになったかなと私自身もそう思っております。ところが盛り込みすぎたかなというご注意もございますので、これから本当に推進をしていくことが非常に大事になってまいります。

話が変わりますけれども、国土形成計画も推進部会が発足いたしまして、いろんな議論をされてございます。いろんな人がいろんな努力をしておるのですけれども、計画は本当にいいものができるんだけど、それがなかなか実現していかないと、いろんな理由がありますけれど、そこが大問題だなと思っております。

そこで北海道開発分科会も推進部会をやっという、活動していこうということになるかと思っておりますけれども、地域連携課も含めて厳しい予算制約、圧迫という言葉を別の委員からいただきましたけれど、そういう中で実現に向けてどうしていくかと、こういう計画作って本当によかったねということ北海道の方々のみならず、日本の全国の方に実感いただくような実現、実施というのが本当に問われると思っておりますので、難しい課題がまだまだ山積しておると思っておりますけど、ぜひみんなの力で連携して協力して向かっていければなと思っておりますので、引き続きよろしくお願いを申し上げます。

《欠席の篠原委員からのご意見》

本日の第9期北海道総合開発計画案の最終審議に、所用により欠席させていただくこと深くお詫び申し上げます。書面を以て意見を述べることで、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

私はここまで、農業団体の立場として北海道開発分科会ならびに計画部会に参画させていただきました。委員の皆様の深い考察に基づくご議論と、事務局の皆様の運営、ご尽力によってここまで計画案を作り上げられましたことに敬意を表します。

私としましては、気づけない視点からのお話を伺って勉強させていただきましたし、何よりも北海道の将来を皆が真剣に考えて議論されたことで、素晴らしい計画案になったものと感じております。また、パブリックコメントでも多くの声があり関心の高さが伺えますし、

それらも反映されたことで、この計画案にしっかりと重みを与えているのではないでしょうか。

今般、新たな北海道総合開発計画案が策定されましたが、私は常々、歴史的な積み重ねによって現状があり、その先の将来があると考えております。そして、将来を考えるときには、様々な分野がお互いの考えを持ち寄って連携することが不可欠であり、「共創」という言葉が重要なキーワードになると考えております。今回の計画が、まさにそのような形でまとめていただけたことに感謝申し上げます。

食という観点では、生産現場は人手不足や高齢化など構造的な課題も抱えておりますが、昨夏のような猛暑も平時として想定して、様々な関係機関と連携して対応していかなければなりません。また、生産して終わりではなく、運ぶことも必要です。鉄道貨物輸送は維持存続に向けて議論されることになりましたが、最終的には食卓に並ぶところまで考えなくてはなりません。加えて、私どもJAグループは国消国産を掲げておりますが、食料安全保障や価格転嫁など、食のあり方を見直す声や動きが広がってきております。

北海道が日本の食料基地として国民の食を担うことが北海道の発展につながると信じておりますが、同時に、こうした課題は決して北海道だけの問題ではなく、消費者の方々も含めて国全体で考えていくことが必要と感じているところです。

無事に計画が承認いただけたら、今後は実践の段階に進んでまいります。私も、様々な関係者の皆様と連携しながら「共創」の理念のもと、役割を果たしてまいりたいと存じます。

【石田分科会長】 もし、ご意見がないようでしたら、委員からのご発言に関して事務局から追加の説明などあればお願いしたいと思います。

【石川参事官】 それでは、本当に委員の皆様から貴重なアドバイスも含めて、これらに対する期待のようところが一番多かったと思います。我々、非常に重く受け止めて、これから推進していかなくちゃいけないと思っております。

何人かの委員から修正のご意見もいただいております。一つ一つ、ここで答えるには時間がないと思いますので、いただいたご意見は我々、しっかり検討させていただきたいと思っております。まだまだ足りないところ、記述されていても不十分いうところもあるので、そういったところはしっかりと事務局で検討させていただいて、よりよいものにしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【石田分科会長】 ありがとうございます。ただいまの事務局からのレスポンスに対し

て、ご発言ございますか。(発言なし)

それでは本日の審議は以上とさせていただきますが、冒頭にも申し上げましたとおり、議事1の第9期北海道総合開発計画(案)につきましては、本日の審議をもって取りまとめとなります。皆様にはこれまで大変多くの貴重なご意見をたくさんいただきましたけど、皆さんからいただいたご意見の内容を踏まえまして、第9期北海道総合開発計画(案)につきましては、当分科会としては、原案ではおおむね妥当って書いてあるんですけど、よくできたという評定を差し上げていいんじゃないかなと思います。

ただ、今日もたくさんご意見いただきました。修正すべきところ、多々あろうかと思えますので、事務局に修正をお願いしたいと思えます。今のご発言のとおりでございます。修正内容の確認につきましては日程も限られておりますことから、分科会長の私に一任していただければありがたいと思えますのでよろしくお願いいたします。ご異論がなければ、そのようにさせていただこうかと思えますが、よろしゅうございますか。

(「異議なし」の声あり)

【石田分科会長】 ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。

先ほども申し上げましたけれども、計画部会長を務めていただいた真弓会長はじめ、皆様には第9期計画の策定に当たり、本日も長時間にわたってお時間をいただくとともに、大変多くの貴重なご意見をいただきありがとうございます。また、パブリックコメントもたくさんの方からいただきまして、これにつきましても感謝申し上げますとともに、献身的にまとめていただきました事務局の皆様に改めて御礼を申し上げたいと思えます。

最後になりますけれども、第9期北海道総合開発計画(案)については、国土審議会長の同意を得た上で国土交通大臣に答申をいたします。今後の手続につきましては、私で事務局と調整しながら対応させていただきたいと思えます。この計画は冒頭ございましたように年度内の閣議決定が予定されております。次年度以降、この計画に基づき様々な取組が進められていくことになろうかと思えます。まず、広報・広聴に関しては4月からダッシュしていくという計画もご披露いただきました。その際、北海道局をはじめとした皆様には、これまで議論いただいた内容も踏まえながらご対応いただきますようお願いをいたします。

それでは、議事は以上となります。委員の皆様には、貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。事務局に進行をお返しいたします。

【増田総務課長】 ありがとうございます。最後に北海道局長の橋本から発言をさせていただきます。

【橋本北海道局長】 起立してお礼を申し上げます。まず、石田委員長、本当に取りまとめ、ありがとうございました。また本当に長い間、この分科会や真弓さんが動かして下さった計画部会の方々、今日ここにいらっしゃらない方には今は直接声をお届けできませんが、心からお礼を申し上げたいと思っております。

北海道局長に着任してこの会議に出させてもらった時に申しあげましたが、自分は約20年前の7期計画、約10年前の8期計画、ともに携わっております。理由は様々ですが非常に難しい時期であったり、アゲンストの要素も多々ありましたが、今回の計画は非常に前向きで、北海道の価値に着目して内容をまとめていただきました。更に、策定後の進め方につきましても十分な助走をつける機会をいただきました。

なお従前は、閣議決定の日から計画スタートという形をとっていましたが、今回は令和6年度からとしており、その点でも組織や予算が出揃った中で計画をスタートできることになります。

今後は政府内において閣議決定に向けた手続を進め、3月中のいずれかの日の閣議に付して決定させていただきます。その暁には、改めてご一報させていただきます。

話しているのは自分ですが、ここにいる北海道局職員全ての気持ちを代表いたしまして本当に心からお礼を申し上げる次第です。どうもありがとうございました。

【増田総務課長】 以上をもちまして、国土審議会第28回北海道開発分科会を終了いたします。石田分科会長及び各委員の皆様には、当分科会の円滑な進行にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

— 了 —